

ガイドラインの適用範囲と構成

○ 適用範囲

本ガイドラインは、地中熱利用に関する手法のうち、地中熱利用ヒートポンプを用いた手法を対象に解説しています。地中熱利用ヒートポンプ以外の方式（例：地下水散水方式、空気循環方式、地熱利用等）は、本ガイドラインでは対象外としています。

○ ガイドラインの構成

1章、2章では地中熱利用ヒートポンプの技術やメリットの概要を記載しています。

3章以降で、地下水・地盤環境への影響を生じることなく普及促進を図る観点から、地中熱利用ヒートポンプの方式選定や技術の導入における留意点、可能性のある地下水・地盤環境への影響項目とモニタリング方法について記載しています。

各章の概要は以下のとおりです。

1. 地中熱利用ヒートポンプの概要

地中熱利用ヒートポンプの仕組み、主な地中熱利用方式、地中熱の利用用途等についての概要を記載しています。

2. 地中熱利用ヒートポンプによる省エネ効果等および事例紹介

従来の冷暖房や給湯などの方式と比べた場合の省エネ効果、CO₂排出削減効果、省コスト効果、ヒートアイランド現象の緩和効果等について記載しています。

3. 地中熱利用ヒートポンプの導入・利用に関する配慮事項

導入場所での条件に適した地中熱利用ヒートポンプの利用方式の考え方、導入・利用における留意点、チェック・モニタリング項目等について記載しています。

4. 地下水・地盤環境への影響項目とモニタリング方法

地中熱利用ヒートポンプを用いることにより周辺の地下水・地盤環境に及ぼす可能性のある影響項目、周辺環境をモニタリングする項目と方法等を記載しています。

5. モニタリングデータの将来的な活用について

今後の地中熱利用ヒートポンプ技術の普及・発展のため、モニタリングデータを適切に蓄積・管理していくことの必要性等を記載しています。